

岡山県感染症週報 2012 年 第 52 週 (12 月 24 日～12 月 30 日)

【お知らせ】 次週、2013 年第 1 週(12/31～1/6)の感染症週報は、平成 25 年 1 月 15 日(火)にホームページに掲載いたします。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 52 週 (12/24～12/30) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 50 週 2 類感染症 結核 3 名 (30 代 男 1 名、50 代 女 1 名、80 代 男 1 名)

第 52 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157:80 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 120 名 (定点あたり 0.63 → 1.43 人) の報告がありました。定点あたり 1.00 人を上まわり、岡山県はインフルエンザの流行シーズンに入りました。

○感染性胃腸炎は、県全体の患者数は減少しましたが、倉敷市・備前地域・美作地域では発生レベル 3 が継続しています。

岡山県内で発生した食中毒患者から、ノロウイルス GII/4 変異株が検出されました。

○RS ウイルス感染症は、前週とほぼ同数でした。

○水痘は、増加傾向です。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 52 週は 1 名の発生があり、2012 年第 1～52 週までの累積報告数は 169 名になりました。腸管出血性大腸菌感染症の 12 月の発生件数は、12 月 30 日までに 13 名が報告されており、患者が多発しています。岡山県では 8 月に発令した「腸管出血性大腸菌感染症警報」に加え、さらなる注意喚起を行っています。
2. **インフルエンザ**は、県全体で 120 名 (定点あたり 0.63 → 1.43 人) の報告があり、前週より増加しました。流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を上まわったことから、岡山県は流行シーズン入りしたと考えられます。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。全国では、第 51 週 (12/17～12/23) の定点あたり報告数が 2.23 人となり、前週 (1.17 人) の 2 倍近い増加となっています。
3. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、県全体では減少しましたが (定点あたり 17.11 → 13.15 人)、倉敷市・備前地域・美作地域では発生レベル 3 が継続しています。県内で 11 月に発生した食中毒患者から検出されたノロウイルスを遺伝子解析したところ、今シーズン全国各地で検出されている GII/4 変異株 (GII/4 2012 変異株) であることが確認されました。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
4. **RS ウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 0.78 → 0.76 人)。美作地域 (2.17 → 3.50 人) で患者が多い状態がつづいており、この地域で報告患者の半数を占めています。冬に患者が増加する感染症であり、1 歳以下の乳幼児では細気管支炎や肺炎など重症化することもあります。ひきつづき感染予防に努めるとともに、県内の発生動向に注意してください。
5. **水痘** (みずぼうそう) は、前週より増加しました (定点あたり 1.56 → 1.96 人)。倉敷市 (1.64 → 3.91 人) では患者が増加し、真庭地域 (8.00 → 3.00 人) や、岡山市 (2.29 → 2.36 人) でも患者が多い状態がつづいています。

◎インフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症など冬に流行がみられる感染症が増加しています。

外出後や調理前・食事前の手洗い、うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など感染予防に努めてください。また、感染した時は、せきエチケットを守るなど他の人にうつさないように気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移:

: 2 倍以上の減少

: 1.1～2 倍未満の減少

: 1.1 未満の増減

: 1.1～2 倍未満の増加

: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

インフルエンザ情報 2012 年 第 52 週 (12 月 24 日 ~ 12 月 30 日)

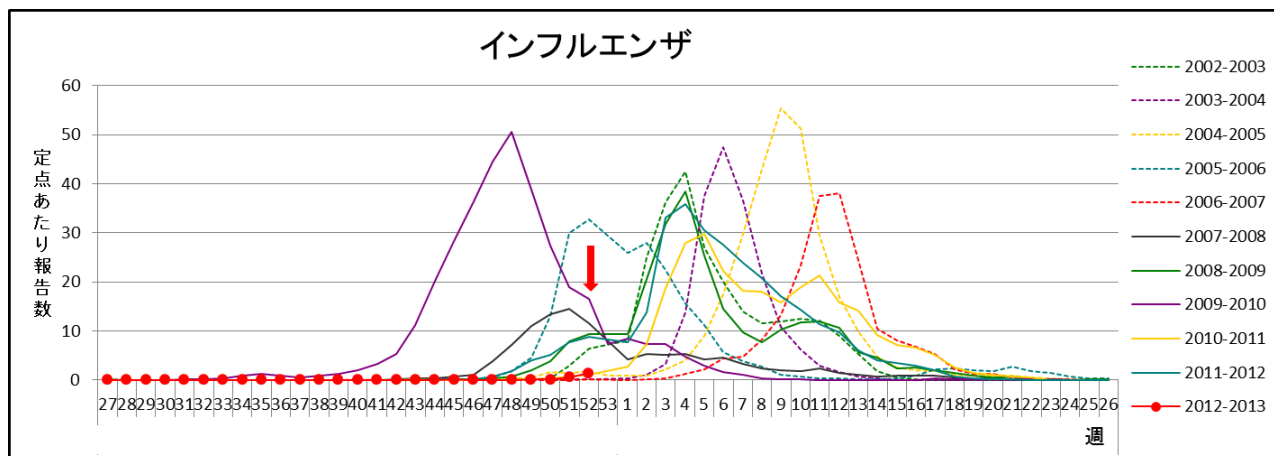
【お知らせ】 次週、2013 年第 1 週(12/31~1/6)のインフルエンザ情報は、平成 25 年 1 月 15 日(火)にホームページに掲載いたします。

➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 120 名(定点あたり 0.63 → 1.43 人)の発生がありました。(84 定点医療機関報告)

岡山県はインフルエンザの流行シーズンに入りました。

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業、インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 120 名(定点あたり 0.63 → 1.43 人)の報告があり、前週より増加しました。流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を上まわったことから、岡山県ではインフルエンザの流行シーズンに入ったと思われます(全国では第 50 週に流行シーズン入り)。

備前地域(1.40 → 3.93 人)で患者が大きく増加し、倉敷市(0.38 → 1.25 人)や美作地域(1.20 → 1.20 人)では、1.00 人を越えています。例年、定点あたり 1.00 人を越えると、患者が急増する傾向にあります。手洗い・うがいを励行する、人混みではマスクを着用するなど、さらなる予防対策に努めましょう。

全国集計第 51 週(12/17~12/23)によると、全国では定点あたり 2.23 人であり、前週(1.17 人)の 2 倍近い増加となっています。全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 81%、B 型が 12%、AH1pdm09 型が 7%であり、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。また、B 型の検出割合も増加しています。いずれの型も流行の可能性があり、全ての年齢層の方がインフルエンザに対する注意が必要です。

◆インフルエンザの流行シーズンに入りました。さらなる予防対策をお願いします。

【手洗い】

外から帰ったときには手洗いを心がけましょう。アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

【せきエチケット】

インフルエンザは、インフルエンザにかかった人のせき、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。インフルエンザが流行してきましたので、周囲の方々のためにも「せきエチケット」に心がけましょう。

※「せきエチケット」とは

- せき・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用する。マスクを持っていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて 1m 以上離れる。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐゴミ箱に捨てる。

【予防接種】

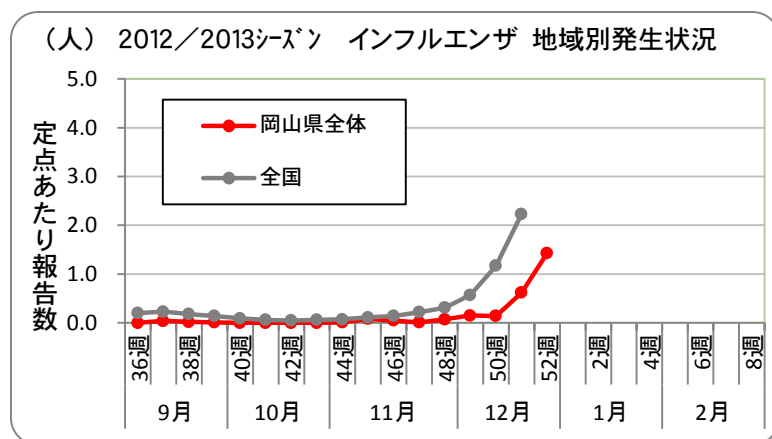
インフルエンザワクチンの予防接種は、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があるとされています。なお、65 歳以上の方、60 歳以上 65 歳未満の方で一定の条件を満たす方は、予防接種法上の定期接種の対象となっています。

1. 地域別発生状況

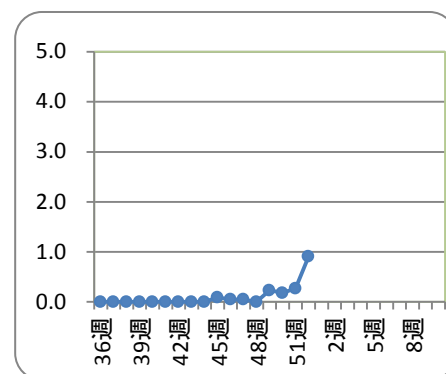
第 52 週 (12/24～12/30) 前週からの推移 (単位：人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1.43	↑	備 中	患者数	6	→
	定点あたり	120			定点あたり	0.50	
岡山市	患者数	20	↑	備 北	患者数	3	↗
	定点あたり	0.91			定点あたり	0.50	
倉敷市	患者数	20	↑	真 庭	患者数	—	—
	定点あたり	1.25			定点あたり	—	
備 前	患者数	59	↑	美 作	患者数	12	→
	定点あたり	3.93			定点あたり	1.20	

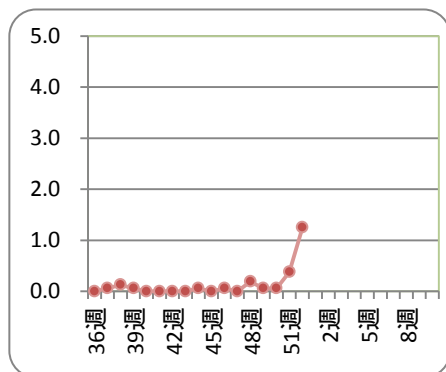
【記号の説明】 前週からの推移： 2 倍以上の減少 ↓ 1.1～2 倍未満の減少 ↘ 1.1 未満の増減 →
1.1～2 倍未満の増加 ↗ 2 倍以上の増加 ↑ —：未発生



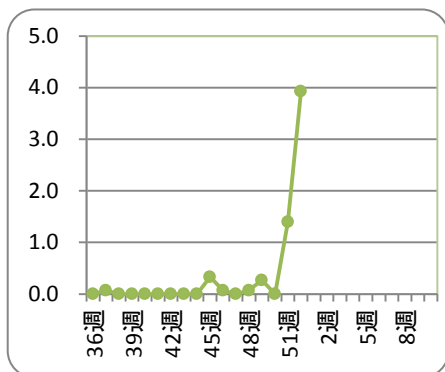
岡山市



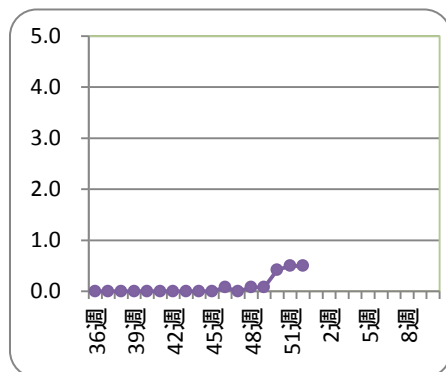
倉敷市



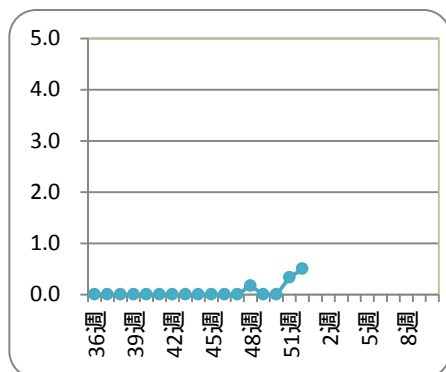
備前地域



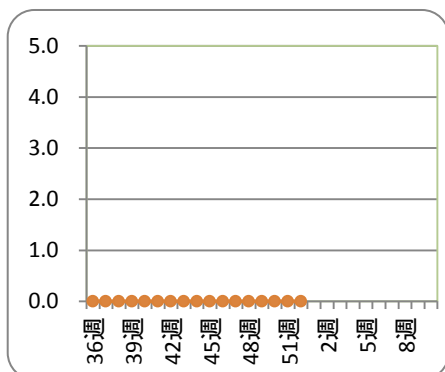
備中地域



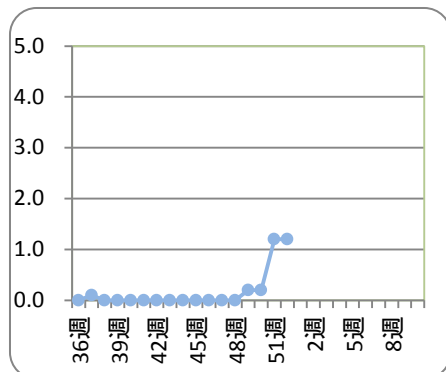
備北地域



真庭地域



美作地域

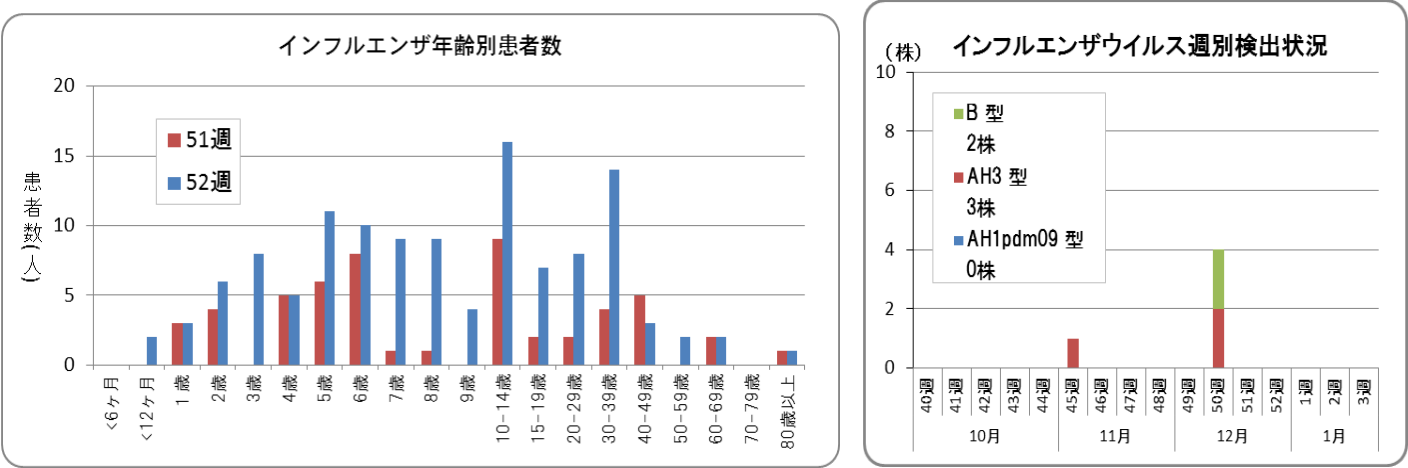


2. 年齢別発生状況 第52週（12/24～12/30）

各年齢層で患者増加が見られます。

3. インフルエンザウイルス検出状況 第52週（12/24～12/30）

第52週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第52週（12/24～12/30）

第52週、インフルエンザとみられる学校の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	23	—	19	—	2	—	—	—	—	—	2	H24. 11. 6
岡山市	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	11	—	7	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 12. 12
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

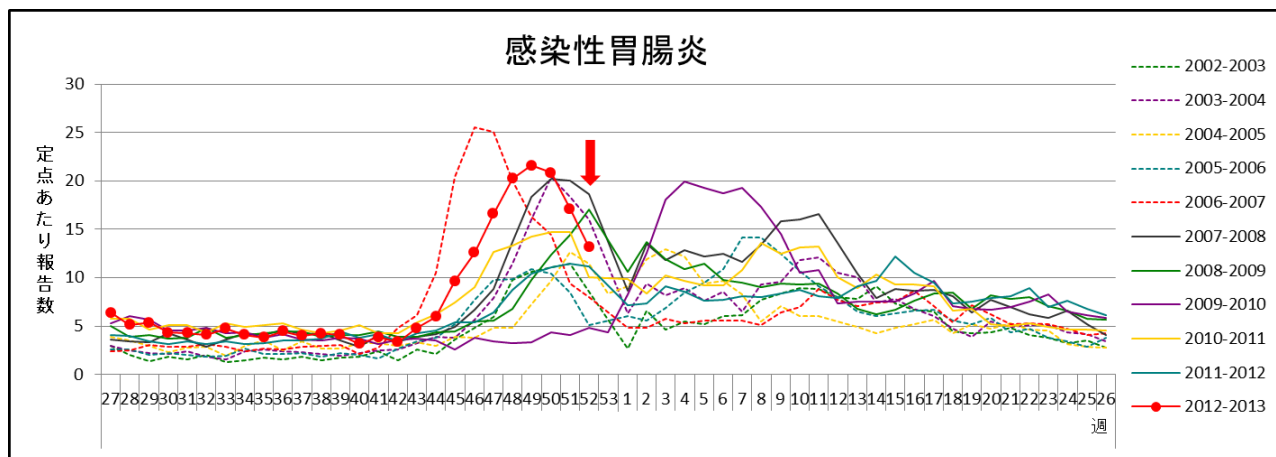
第52週：0施設 累計：2施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—

感染性胃腸炎情報 2012 年 第 52 週 (12 月 24 日 ~ 12 月 30 日)

【お知らせ】次週、2013 年第 1 週(12/31~1/6)の感染性胃腸炎情報は、平成 25 年 1 月 15 日(火)にホームページに掲載いたします。

- 岡山県内の患者報告数は 710 名 (定点あたり 13.15 人) であり、前週より減少しました。(54 定点医療機関報告)
- 倉敷市、備前地域、美作地域でレベル 3 が継続しています。
- 岡山県内で発生した食中毒患者から、ノロウイルス GII/4 変異株が検出されました。

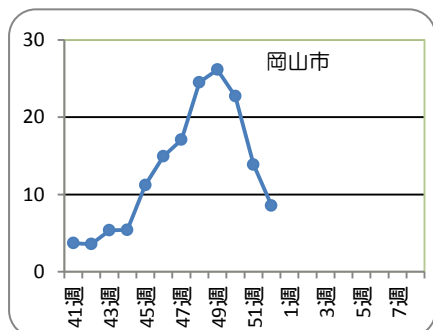


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、3 週つづけて減少しました (定点あたり 17.11 → 13.15 人)。全ての地域で減少がみられますが、倉敷市 (17.91 人)、備前地域 (13.90 人)、美作地域 (20.33 人) では発生レベル 3 が継続しています※。

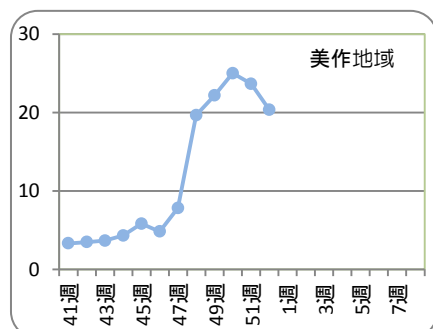
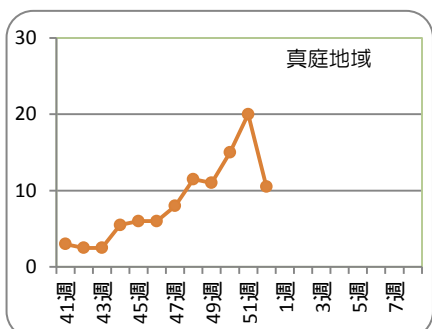
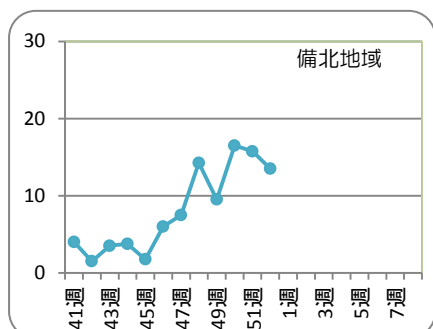
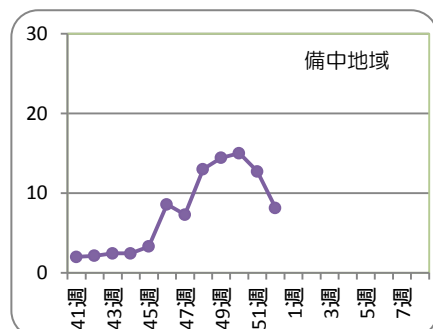
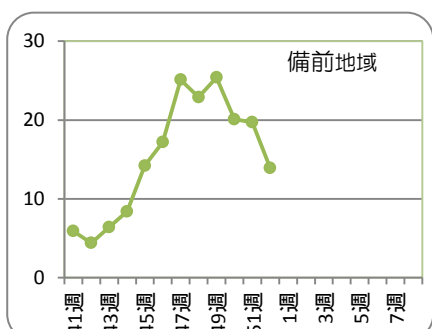
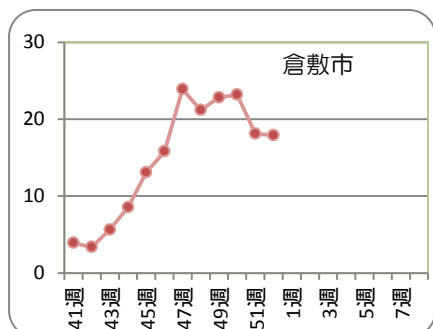
全国では医療機関や社会福祉施設でのノロウイルス等を原因とする感染性胃腸炎の集団感染が多発しており、岡山県でも発生が大変懸念される状態です。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。(※：感染性胃腸炎は、発生レベル 3 の開始基準 20.00 人を一度越えると、終息基準値 12.00 人より下がらないとレベル 3 は解除されません。)

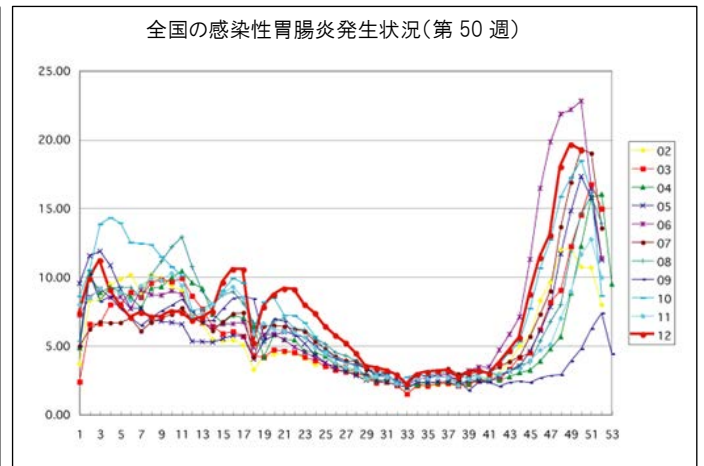
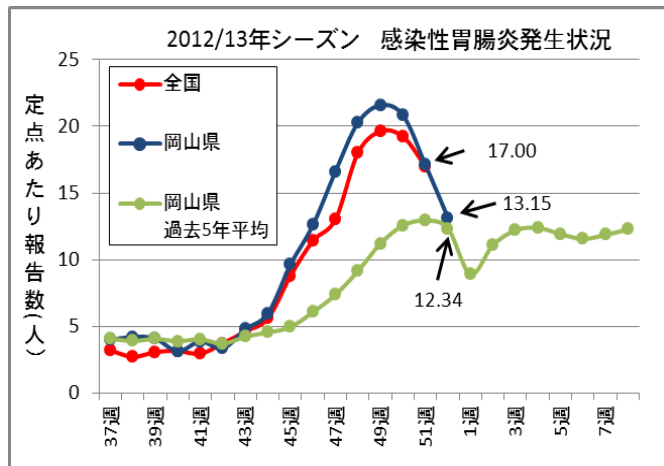
◆地域別・年齢別発生状況



◆ ウイルス検出情報

県内で 11 月に発生した食中毒患者から検出されたノロウイルス 3 株を遺伝子解析したところ、今シーズン全国各地で検出されている GII/4 変異株 (GII/4 2012 変異株) であることが確認されました。





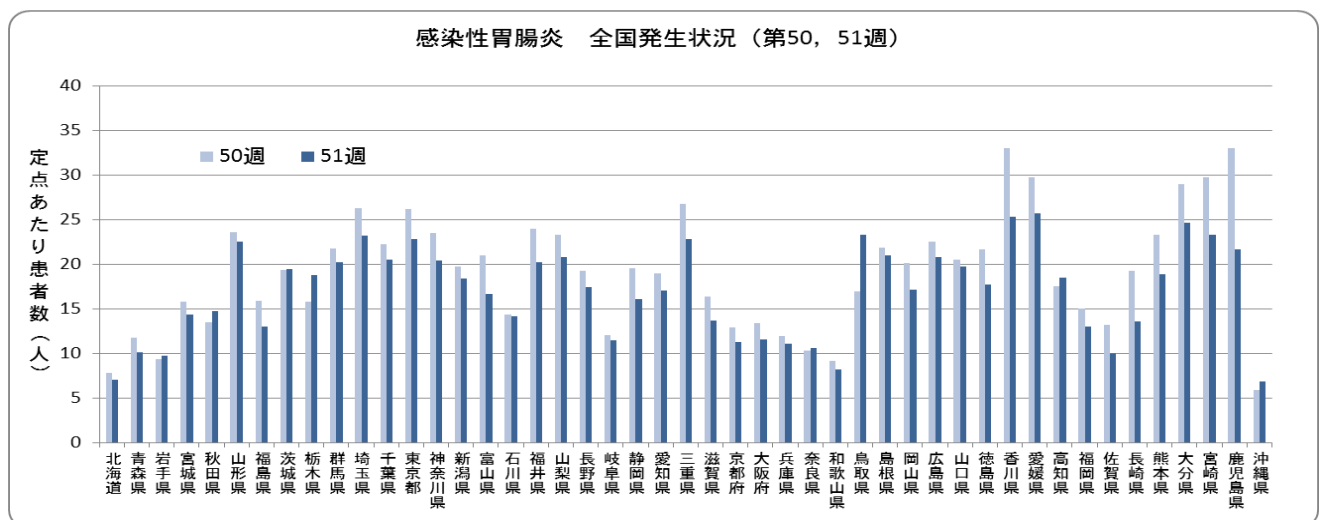
(国立感染症研究所HPより)

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行しましょう。吐物や下痢便を処理するときは、使い捨ての手袋やエプロンを使用し、処理する人自身が感染しないよう気をつけ、また、他へ感染を広げないよう気をつけましょう。消毒には塩素系漂白剤を使用し、広い範囲を消毒して下さい。

アルコールは消毒効果が低いとされています。また、拭き取りに使った布などはただちにゴミ袋に入れ密閉し、廃棄してください。

[○ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

[○注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)



【医療機関などの方へ】

◆ノロウイルスに関する院内感染事案の報告等に関する事務連絡が厚生労働省から発出されました。

(平成24年12月25日)

全国では、院内感染によるノロウイルスの集団感染事例や患者の死亡事案が散見されています。厚生労働省では平成24年12月25日付で、ノロウイルスに関する院内感染事案の報告等に関する事務連絡が発出され、さらなる感染予防対策に努めるよう注意喚起を行っています。

- さらなる手洗いの徹底や、糞便・吐物の適切な処理等の感染予防対策をお願いします。
- 院内感染によるノロウイルスの集団感染を疑う場合や、院内感染との因果関係が否定できない死亡事例が発生した場合は、速やかに管轄保健所に報告し、支援を受けるようお願いします。

保健所別報告患者数 2012年 52週 (2012/12/24～2012/12/30)

2013年1月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	120	1.43	20	0.91	20	1.25	59	3.93	6	0.50	3	0.50	—	—	12	1.20
RSウイルス感染症	41	0.76	7	0.50	5	0.45	2	0.20	6	0.86	—	—	—	—	21	3.50
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	—	—	—	—	1	0.14	4	1.00	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	8	0.57	7	0.64	5	0.50	1	0.14	1	0.25	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	710	13.15	120	8.57	197	17.91	139	13.90	57	8.14	54	13.50	21	10.50	122	20.33
水痘	106	1.96	33	2.36	43	3.91	9	0.90	7	1.00	—	—	6	3.00	8	1.33
手足口病	4	0.07	2	0.14	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	1	0.10	—	—	—	—	1	0.50	—	—
突発性発疹	14	0.26	6	0.43	3	0.27	4	0.40	1	0.14	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
流行性耳下腺炎	13	0.24	2	0.14	2	0.18	7	0.70	—	—	—	—	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	—	—	1	1.00	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 52週

(2012/12/24～2012/12/30)

2013年1月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	120	1.43	20	0.91	20	1.25	59	3.93	6	0.50	3	0.50	—	—	12	1.20
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	—	—	—	—	1	0.14	4	1.00	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	8	0.57	7	0.64	5	0.50	1	0.14	1	0.25	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	710	13.15	120	8.57	197	17.91	139	13.90	57	8.14	54	13.50	21	10.50	122	20.33
水痘	106	1.96	33	2.36	43	3.91	9	0.90	7	1.00	—	—	6	3.00	8	1.33
手足口病	4	0.07	2	0.14	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	—	—	1	0.10	—	—	—	—	1	0.50	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
流行性耳下腺炎	13	0.24	2	0.14	2	0.18	7	0.70	—	—	—	—	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第52週 2012/12/24～2012/12/30)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	120	－	2	3	6	8	5	11	10	9	9	4	16	7	8	14	3	2	2	－	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	41	10	6	14	5	4	-	1	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	-	1	3	-	1	-	-	1	-	-	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	-	-	-	4	1	7	1	3	3	2	-	1	-
感染性胃腸炎	710	7	36	95	77	70	55	40	34	23	27	16	84	16
水痘	106	1	8	24	17	18	8	13	4	3	5	1	3	1
手足口病	4	-	1	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
突発性発疹	14	-	7	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	13	-	-	2	1	2	2	2	-	1	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

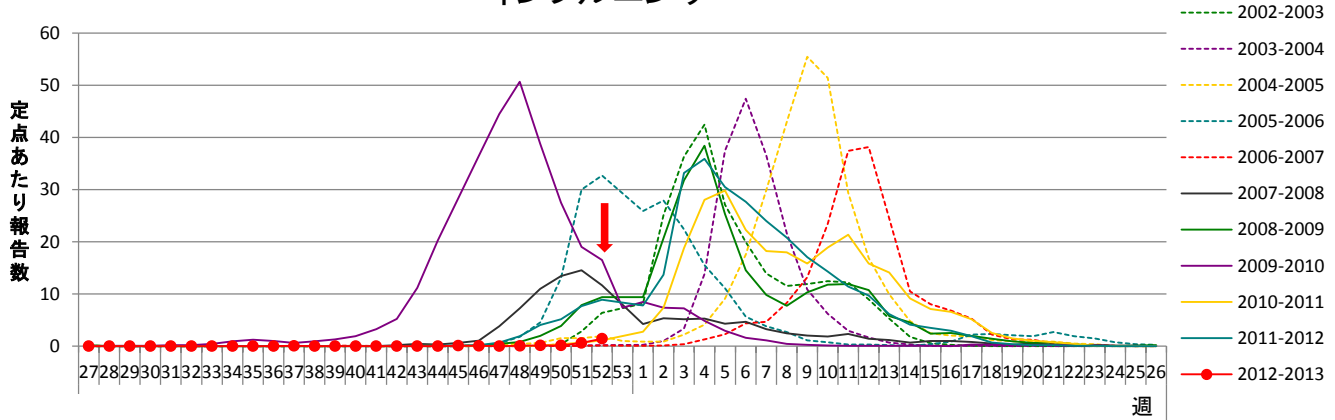
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

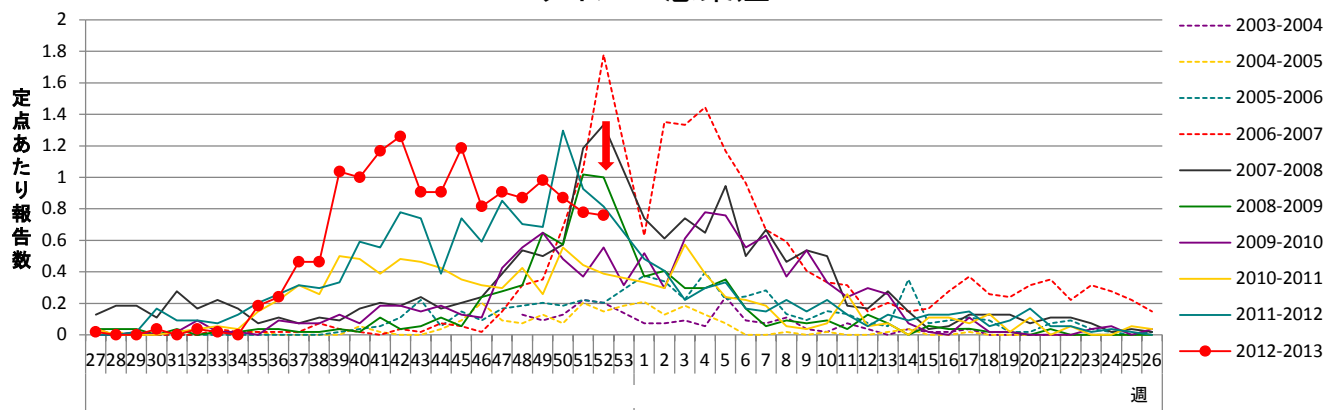
2012 年 52 週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	464	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	169	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	3	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	29	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	11	11	ウイルス性肝炎*3	-	7	9	急性脳炎*4	-	2	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	1
	後天性免疫不全症候群	-	15	15	ジアルジア症	-	3	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	7	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	風しん	-	6	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

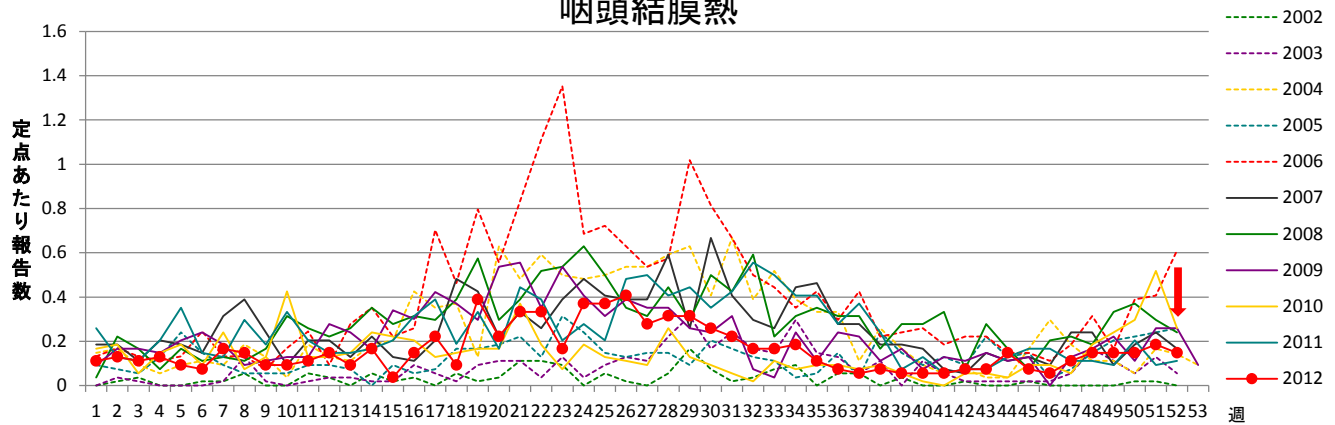
インフルエンザ



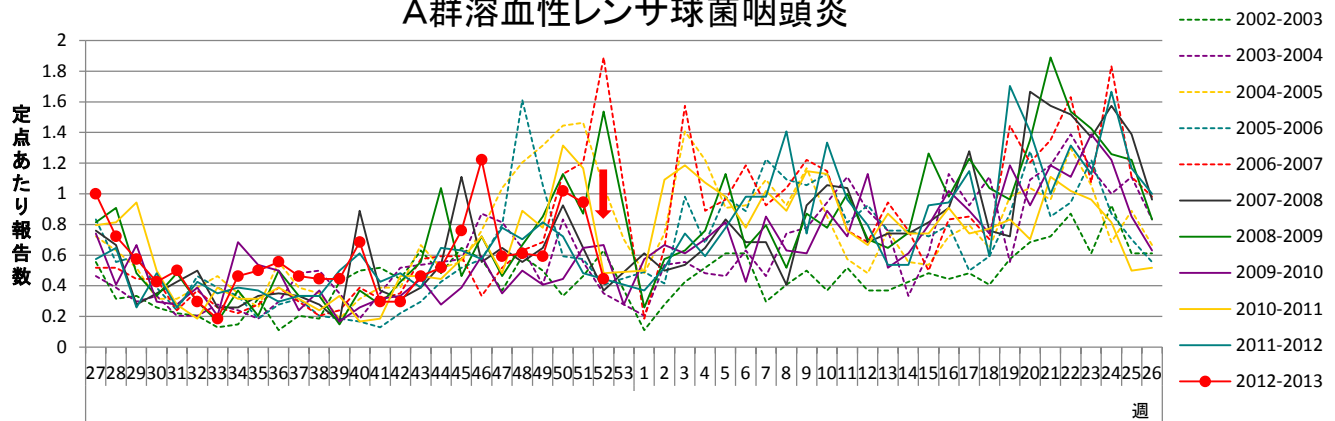
RSウイルス感染症



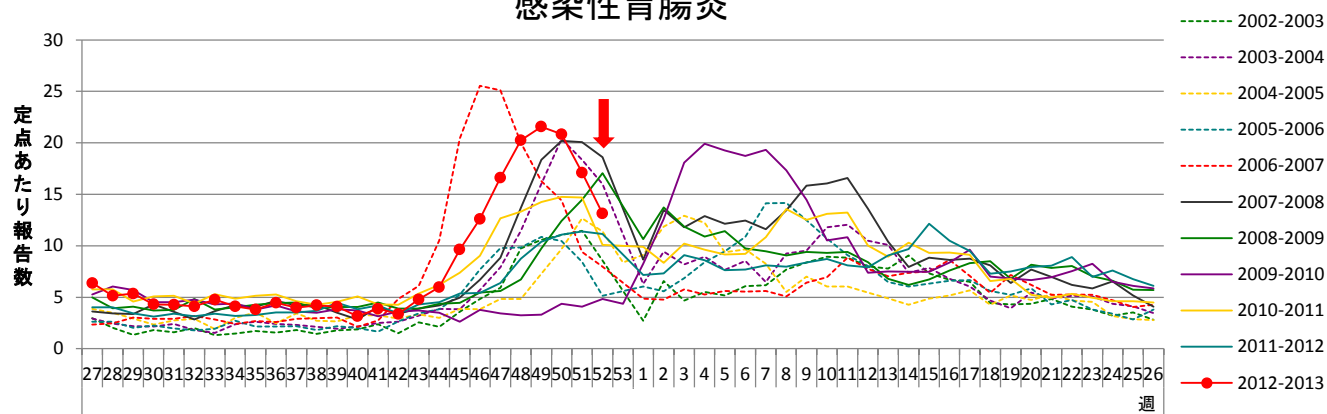
咽頭結膜熱



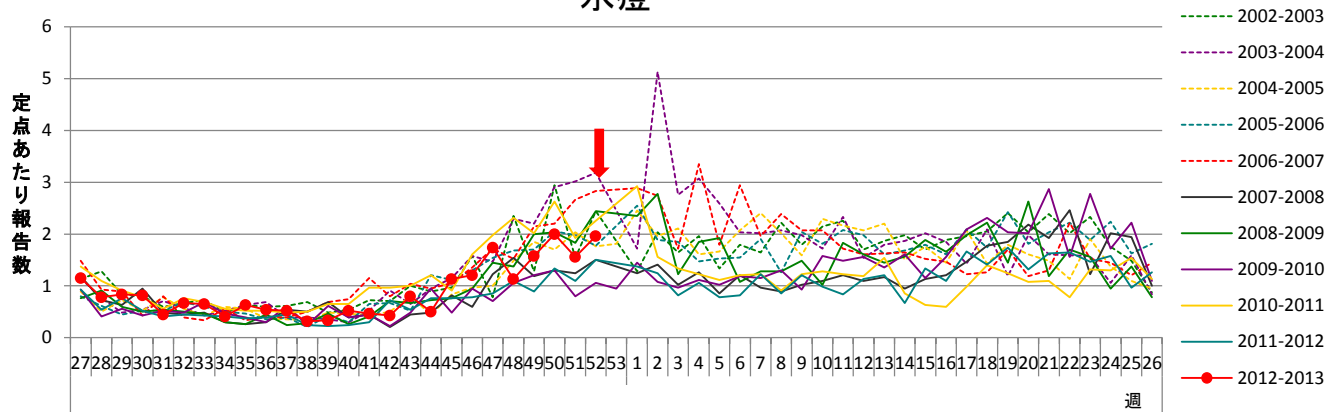
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



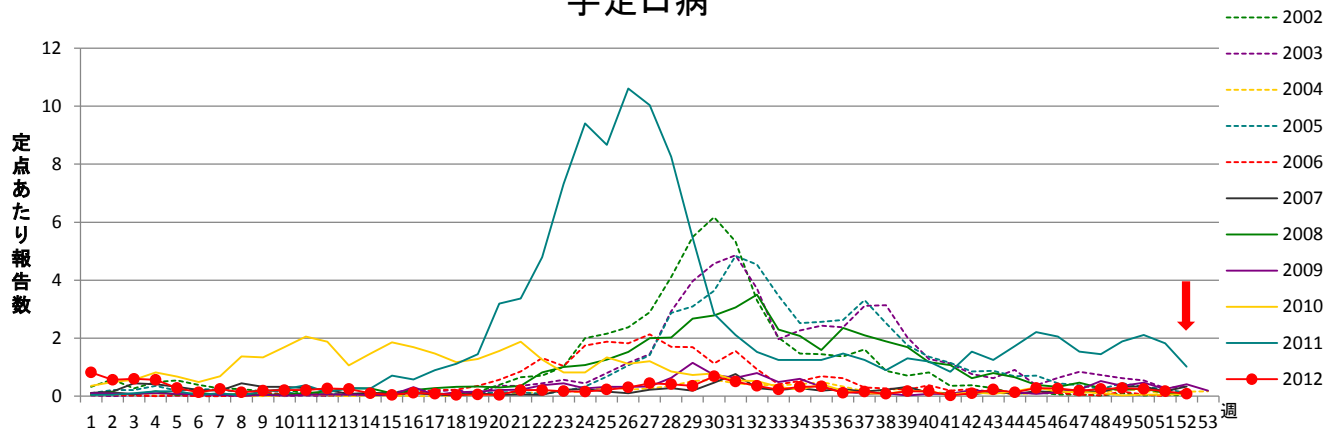
感染性胃腸炎



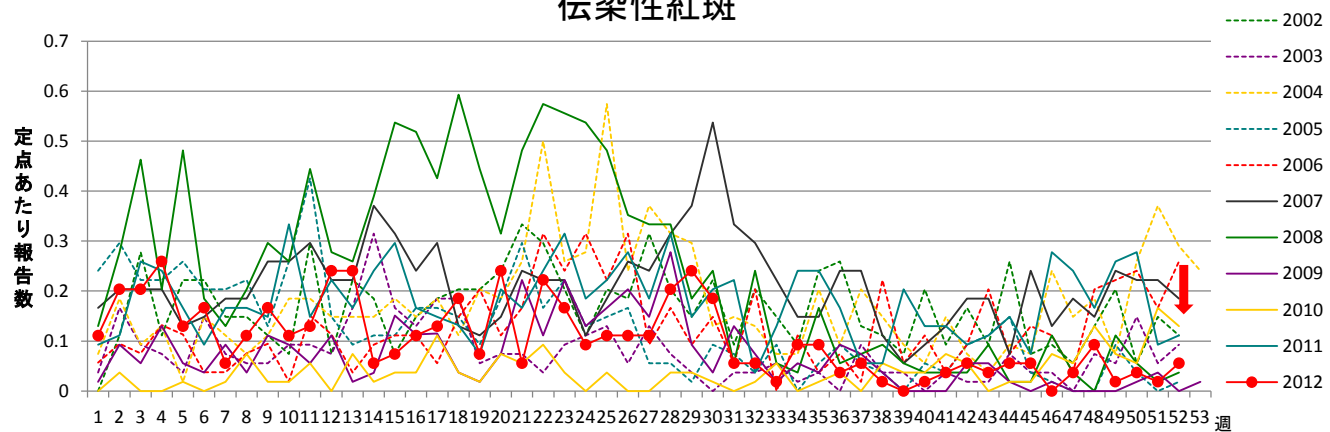
水痘



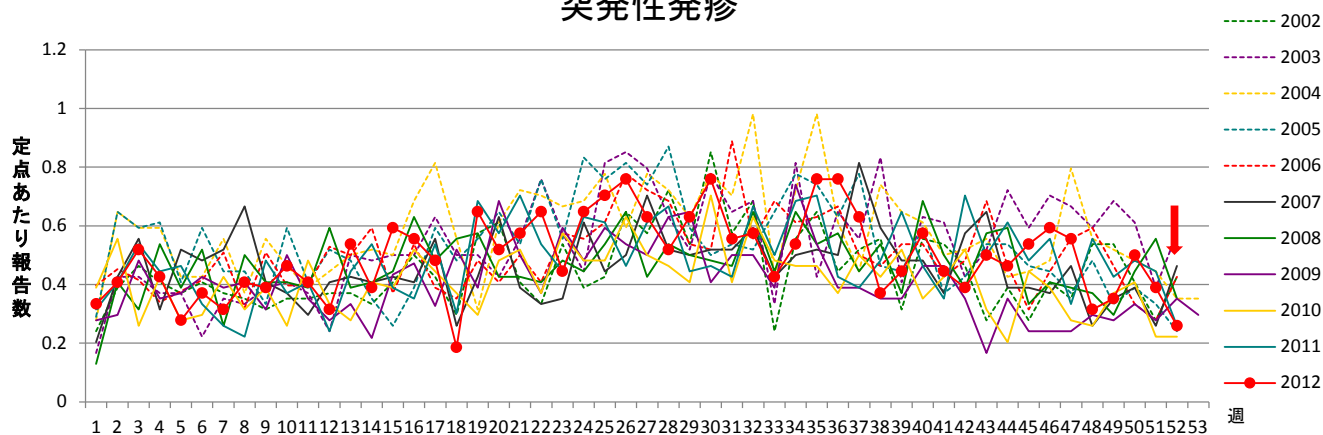
手足口病



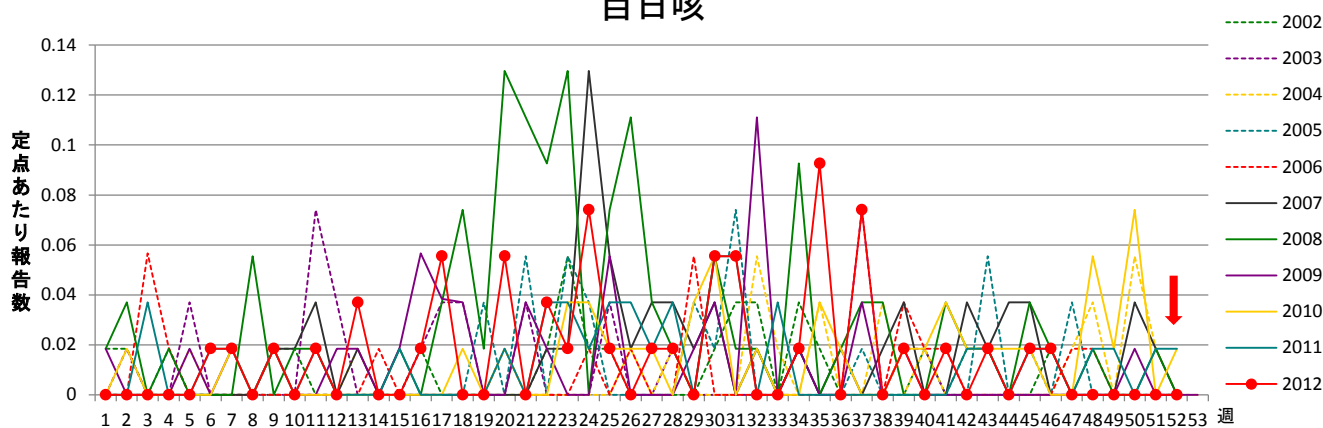
伝染性紅斑



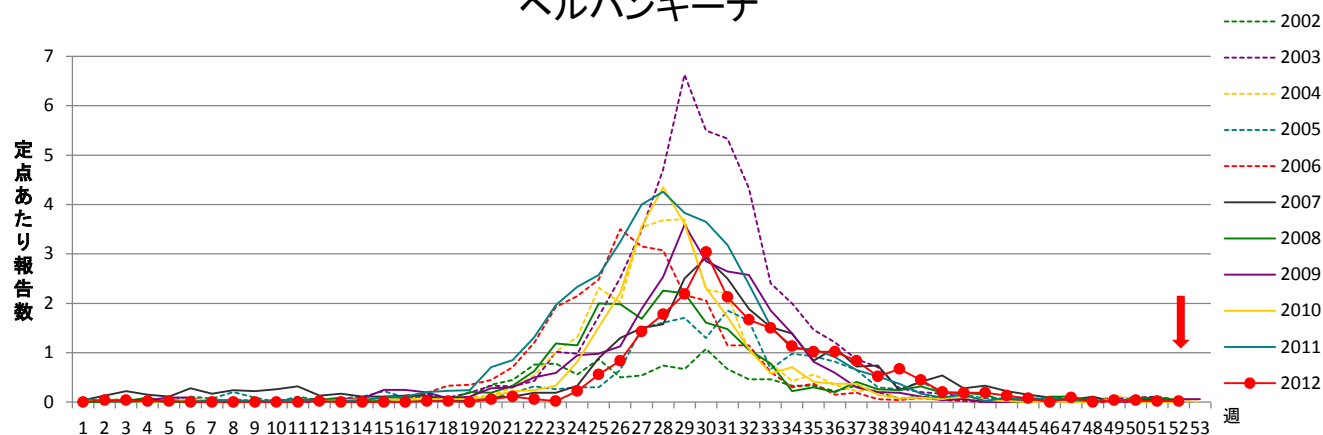
突発性発疹



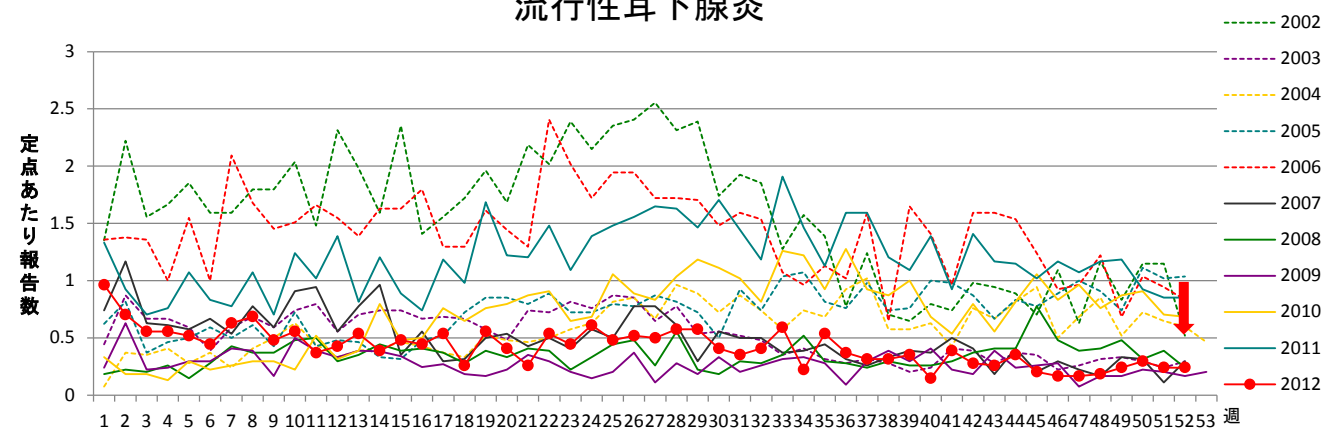
百日咳



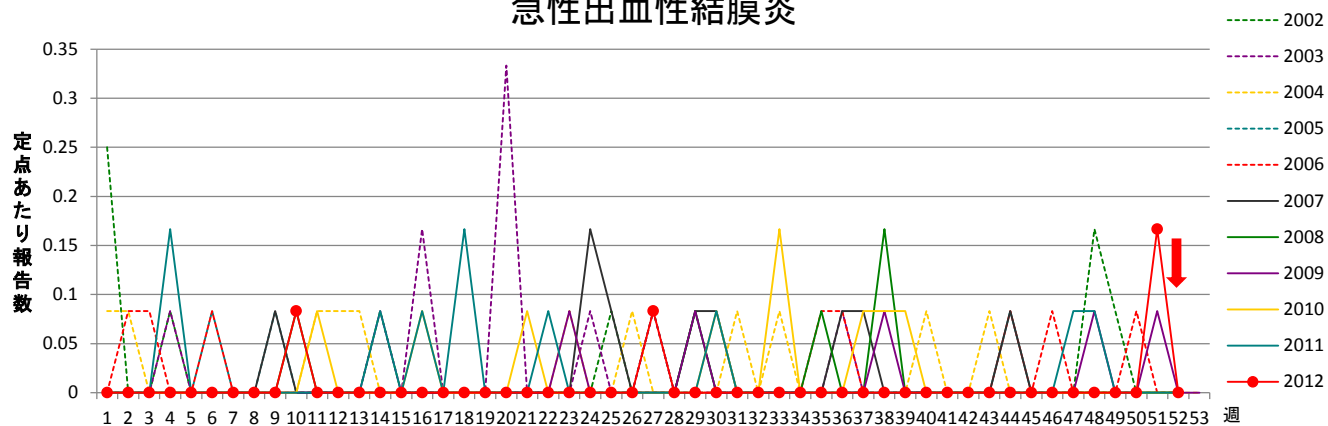
ヘルパンギーナ



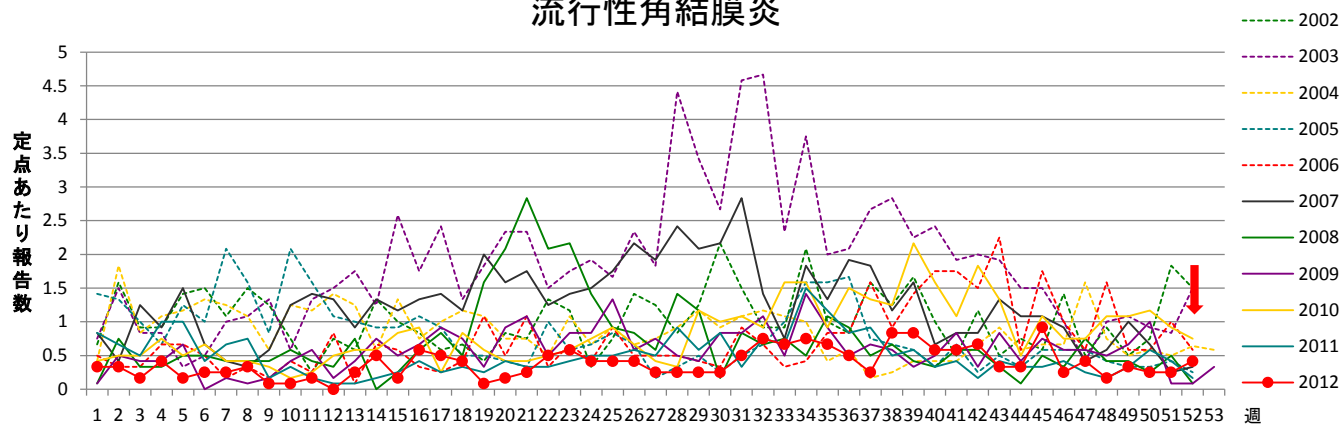
流行性耳下腺炎



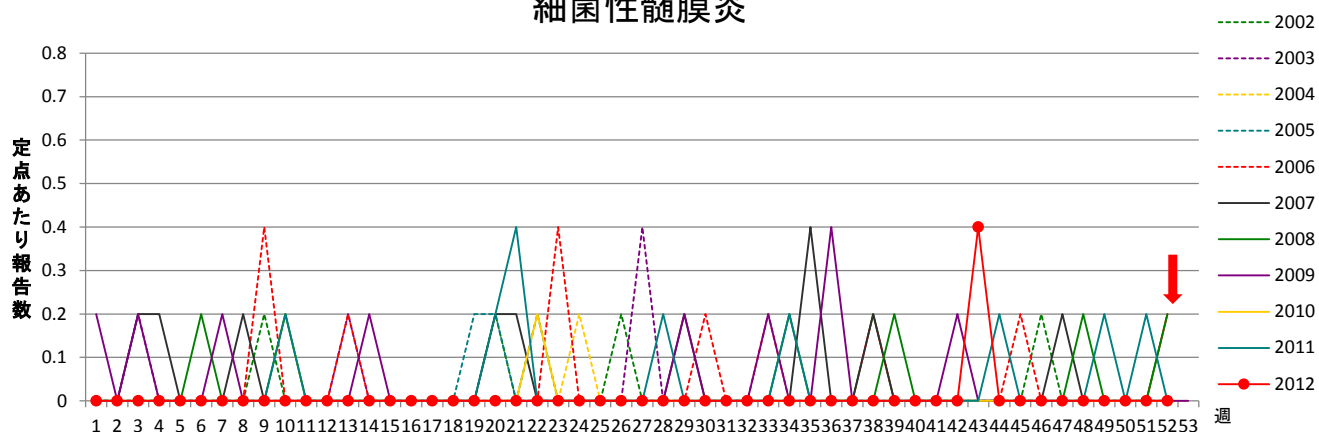
急性出血性結膜炎



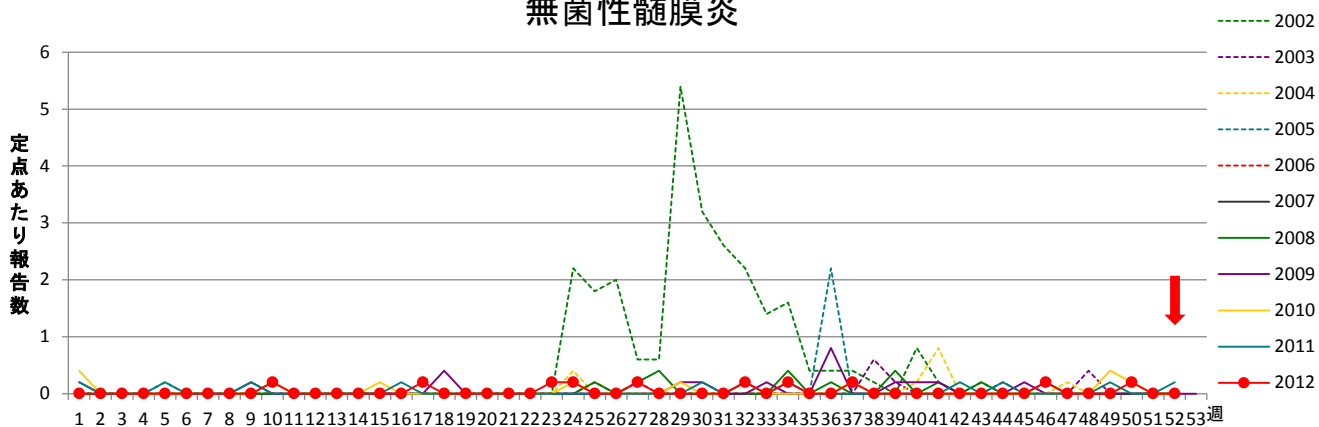
流行性角結膜炎



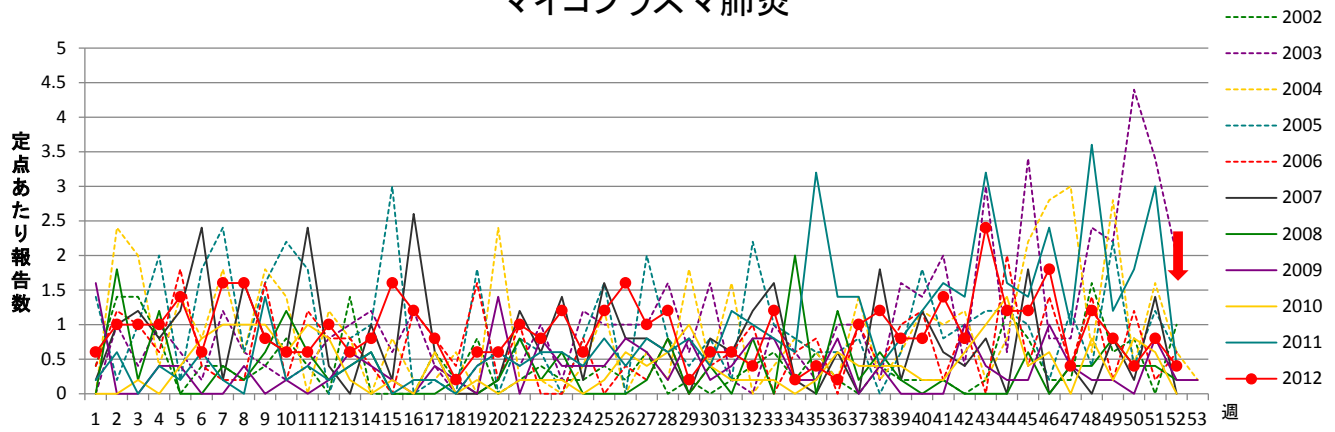
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

